

横浜瓦斯会社

神奈川台場

遺構を公開



瓦斯会社の遺構(奥)の成り立ちを山本社長(右)に説明する上山館長(中区で

台場の遺構が今月、横浜市中区日本大通の横浜都市発展記念館に展示された。

瓦斯会社のれんが造りの基礎の一部は今年七月に、神奈川台場の石垣は二〇一一年七月に出土した。菓子製造販売会社の「三陽物産」(同区長者町)が記念館を運営する財団に五百万円を寄付し、一般公開することになった。

三陽物産の山本博士社長(四巴)は、瓦斯会社の遺構が出土した横浜市立本町小学校の出身。十三日に記念館を訪れ、「子どものころに先生から、馬車道にガスの明かりをともした会社の跡に学校が立っている」と聞き、誇りに思った。今の子どもたちにも現物を見てほしい」と展示を喜んだ。

記念館の上山和雄館長も「市民や観光の方に街の成り立ちを感じてほしい」と話している。

(皆川剛)

日本で初めてガス事業を興した横浜瓦斯会社(のちの横浜市瓦斯局)と、横浜開港後に来港船に祝砲を撃つため施設だった神奈川